

ブログ「中東と石油」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943

ブログ OCIN the Cloud:<https://huangyeyiye.blogspot.com/>

ホームページ OCIN INITIATIVE:<http://ocininitiative.maeda1.jp/>

ホームページ MY LIBRARY:<http://mylibrary.maeda1.jp/>

マイライブラリーNo.:0520

(注)本稿は 2020 年 12 月 3 日から 22 日まで 4 回にわたりブログ「中東と石油」及び「OCIN the cloud」に掲載したレポートをまとめたものです。

2020.12.26

鬼の居ぬ間に:中東の政治的空白に暗躍する国々

目次	頁
はじめに:中東に政治的空白をもたらしている米国と西欧	1
1. ロシア:着々と軍事拠点を拡大	2
2. トルコ:中東の覇者を目指す危険な綱渡り	3
3. イスラエル:アラブの分断に成功、邪魔者は今のうちに消せ!	4
4. 中国:政治より経済優先、一帯一路でシルクロード貫通目指す	4
5. カタール/UAE:小兵の身軽さ、マネーあればGCCは不要	5

はじめに:中東に政治的空白をもたらしている米国と西欧

米国と西欧諸国の中東に対する影響力が一時的にはあるが弱まっている。米国は来年1月の政権交替を控え、今後の中東への対応が定まっていない。西欧諸国は今年末に迫った英国の EU 脱退、すなわち Brexit の影響がはっきりせず、加えて新型コロナウィルス禍(Pandemic)による経済・社会の混乱は収まる気配が見えない。米国、西欧共に中東問題に関与する余裕がないのである。

特に米国の場合、バイデン・民主党政権の新しい中東政策がトランプ・共和党政権時代と大きく変わることは必至である。トランプ政権はイラン核合意から脱退しイランへの経済制裁を強化する一方、エルサレムへの米大使館移転、ヨルダン川西岸入植及びゴラン高原併合の容認などイスラエル寄りの姿勢を明確にした。バイデン次期大統領はイラン核合意復帰を明言しており、イスラエル問題についてもトランプ政権の政策を変更することは間違いなさそうである。

トランプ政権下で大いに得点を稼いだイスラエル、逆に経済が疲弊し青息吐息のイランは共に固唾をのんでバイデン政権の新中東政策を見守っている。その他の中東各国あるいは中東に少なからぬ利害を持つすべての国々が米国の出方を注視している。と同時にこれらの国々はユーラシア大陸西端の西ヨーロッパ諸国が今後どのような中東外交を繰り広げるかにも大きな関心を寄せている。しかし現在は米国も西欧諸国も身動きが取れず明確な中東政策を打ち出せる状態ではなく、中東は政治的空白の状

態にある。その間隙を縫って利害関係国が暗躍しているのが現在の中東と言えよう。

ロシアは黒海から地中海、さらにはインド洋に向かって着々と軍事拠点を拡大しつつある。これまで NATO の忠実な一員として EU 加盟を夢見てきたトルコはギリシャ・東欧などのキリスト教国家に行く手を阻まれている。そのトルコはイスラムに目覚めかつてのオスマントルコのような中東の覇者を目指している。イスラム国家に囲まれたユダヤ国家イスラエルは米国トランプ大統領の強力な支援を受けて UAE などと国交を回復、アラブの分断に成功した。イスラエルの次の標的はイランであり、そのためには手段を選ばないであろう。そのイランは米国の経済制裁で極度に疲弊しているが、闘争意欲は旺盛である。バイデン次期米国大統領の出方をうかがいつつ、富国強兵に余念がない。中東の軍事衝突・地域紛争は終わることがない。

そのような軍事衝突を横目に見ながらユーラシア大陸をまたにかけて経済進出に熱心なのが中国であり、その象徴が「一帯一路」政策である。そして経済・金融面で忘れてはならないのがオイル(天然ガス)マネーを武器に存在感をアピールする GCC の小国 UAE あるいはカタールであろう。

各国はパワーゲームを繰り広げている。しかしその動きに取り残されそうな国がある。サウジアラビアとエジプトである。両国は中東の大国と見なされているが、エジプトはイスラエルのアラブ分断政策によりアラブ盟主としての地位が危うい。サウジアラビアは石油を浪費するばかりで新たな国造りは砂上の楼閣に終わる恐れが出ている。

来年から始まる米国の民主党政権、英国の EU 離脱(BREXIT)、そしてコロナウィルス問題の終焉(ポスト・パンデミック)を控え、現在の中東は政治経済の空白時期と言えよう。本稿はこのような空白の時代、欧米と言う鬼の居ぬ間に暗躍する各国を概観しようとするものである。

1. ロシア: 着々と軍事拠点を拡大



ロシアの中東地域の軍事拠点はこれまでシリアの Tartus 軍港のみであったが、シリア内戦ではアサド政府を強力に支援している。Tartus 軍港からロシア製兵器を Latakia 空軍基地に輸送、ロシア爆撃機の空爆により IS(イスラム国)勢力を壊滅した。さらに IS 追討後はシリア政府軍との共同作戦でクルド勢力、民主勢力などの混成部隊からなる反政府勢力を弱体化させた。こうしてロシアはアサド政府との同盟関係を強化¹、

同国に確固たる軍事拠点を確立したのであった。

この前後のロシアの中東進出は目覚ましいものがあり、トルコに対して地对空ミサイルシステム S-400 を供与した。トルコは NATO 加盟国であり、第二次世界大戦以降、旧ソ連に対する防波堤の役割を担ってきたが、エルドアン政権は米露二大国を天秤にかけると全方位の強国外交を打ち出したのである。西側の軍事機密がロシアに漏洩することを懸念したトランプ米政権がそれまで前向きであったステルス戦闘

機 F-35 の供与に難色を示したのは当然であった²。しかしエルドアン大統領はそれをものともせず、東地中海でロシアと共同軍事演習を行っている³。

ロシアは地中海における勢力拡大のためリビアでは東部ベンガジを拠点とするハフタル將軍の反政府軍事組織に肩入れした。リビアでは首都トリポリの正統政府軍と東部ベンガジ反政府軍の間で内戦状態にあり、トルコはトリポリ政府を支援している。ロシアは自国の民間軍事企業ワグナー・グループを表に立てて反政府軍を支援し、自国の軍用輸送機の表記をカムフラージュして兵員と兵器を増強した⁴。その結果、反政府ハフタル軍団は一時首都トリポリに迫る勢いであったが、トルコはなりふり構わずシリアから民兵を送り込み正統政府を援護した。現在、リビアの石油関連施設は正統政府が支配権を奪回し、石油生産量は急速に回復している状況である⁵。

ロシアはリビアではつまずき、東部地中海に押しとどめられたが、地中海からインド洋に抜ける海上ルートの開拓を狙って、アラビア半島の対岸、紅海に面したスーダンに目を付けた。タス通信はロシアがポート・スーダンに軍港を開港する計画だ、と報じている。10月下旬に米国はスーダンが UAE、バハレーンに次いでイスラエルを承認すると発表⁶、その見返りとして同国に対する経済制裁を解除すると公表しており、ロシアはまさにそのタイミングを狙ったかのようにスーダンへの軍事進出を狙ったのである。これによりロシアは地中海から紅海を経由してインド洋に至るシーレーンが確保できるわけである。ロシアの軍事拡大作戦はとどまるところを知らない。

2. トルコ: 中東の覇者を目指す危険な綱渡り



欧州の BREXIT(英国の EU 離脱)及び新型コロナ危機並びに米国の政権交代と言う政治の空白状況に助けられたのはトルコであろう。シリア内戦でロシアと緊密な軍事協力関係を築き上げ、S-400 ミサイルシステムを導入するきっかけとなった。その一方ではロシアとイランに対する NATO の最前線として米国のステルス戦闘機 F-35 の導入を図った。西側の矛(F-35)と東側の盾(S-400)を同時に保有しようとするトルコの意図は

西側にとってはまさに「矛盾」そのものである⁷。

EU がトルコをけん制できないのは東地中海の天然ガス開発問題も同様である。トルコはギリシャ、キプロス両国の反対を押し切って天然ガスの探鉱作業を強行した。さらにリビア中央政府と経済水域協定を締結しイスラエル、エジプト、レバノンによるヨーロッパ向けパイプライン計画を阻止しようとしている。内戦中のリビアでは、イタリアが政府側を、フランスが反政府側を支援し EU は一枚岩でない。トルコは EU の足元を見ている⁸。

トルコはイソップ物語のコウモリのように西側と東側の間で巧妙に立ち回っている。但し状況は常に変化している。ナゴルノ・カラバフ自治州の紛争でトルコはアゼルバイジャンを支援して仇敵アルメニアを撤退に追い込んだが、アルメニアびいきでイスラム恐怖症 (Islamophobia) の西ヨーロッパ諸国はトルコを非難している⁹。内政も問題山積である。エルドアン大統領の支持基盤である公正発展党 (AKP) はじり貧状

態で、好調だった経済もインフレが進行し、公定歩合の引き上げを余儀なくされた。この経済政策変更では義理の息子の財務相が離反しエルドアン政権にほころびが出てきた¹⁰。イスタンブールのソフィア宮殿をモスクに戻す¹¹など、エルドアン大統領はイスラム保守層の人気取りに余念がないが、強権体制をいつまで維持できるか今が正念場である。

3. イスラエル:アラブの分断に成功、邪魔者は今のうちに消せ！



イスラエルが過去四年間トランプ大統領にびったりと寄り添うことで中東の中で最も得をした国となったことは言うまでもない。米国大使館のエルサレム移転、ヨルダン川西岸の入植促進だけでなく、米国の仲介により UAE、バハレーン、スーダン、モロッコと国交を回復した。中東で孤立していたイスラエルはアラブ諸国

の分断に成功、国際社会が唱えてきたイスラエル・パレスチナの二国家共存論を葬り去った。

しかし米国がトランプ共和党政権からバイデン民主党政権に替わる来年 1 月以降、イスラエルに冬の時代が訪れる。両国関係が史上最悪であったオバマ前政権時代にバイデンが副大統領であったことを考えれば容易に想像できることである。それゆえにこそトランプ政権がレイム・ダック(死に体)になった今もイスラエルは既成事実の積み上げに血眼である。UAE はじめアラブ諸国を次々と和平に引き込んだイスラエルに残された敵はイランだけである。

宗教国家イランがイスラエルをムスリム(イスラム教徒)の敵と呼んでいることは、実はイスラエルが湾岸の世俗君主制国家と手を組む最大のチャンスでもある。ただイスラエルは人口ではエジプト、イラクはおろかサウジアラビアにも及ばず、経済余力では UAE 等の産油国に劣る。イスラエルが生き残るには諜報活動が欠かせない。そのイスラエルには世界に冠たるスパイ網モサドがある。

最近イランの核開発のキーパーソンがテヘランで暗殺された。暗殺の手法は極めて精緻であり、イスラエルが手を下したことはほぼ間違いなさそうである¹²。実は UAE と国交を回復した直後イスラエルの高官が次々とドバイ空港に降り立っており、その中にはモサドの長官も含まれている。国際自由都市のドバイはスパイが暗躍するにはうってつけの街であり、実際過去にもハマス幹部の暗殺事件の舞台になったこともある¹³。今回の事件でイスラエルの諜報機関員が堂々とドバイに入国、そこからテヘランの実行犯に指示したと見るのは考えすぎであろうか。トランプ大統領在職中に邪魔者を消せ、と言うわけである。

4. 中国:政治より経済優先、一帯一路でシルクロード貫通目指す

現在の中国は米国に次ぐ軍事大国、経済大国であるが、中東地域に関しては伝統的に外交・軍事面のプレゼンスは低い。それに比べ経済面での進出は目覚ましい。中国にとって中東は自国製品の重要な輸出相手先であり、低価格の日用雑貨品に限らず、現在では華為の5G通信システムなどのハイテク製品が市場を席捲しつつあり、米国を慌てさせている。さらに貧しい開発途上国に対しては低利・長期の融資を餌に港湾、道路、鉄道などのインフラ建設に食い込んでいる。



一方で中国は中東産油国から大量の原油を買い付けている。BP 統計によれば昨年中国の原油輸入量は5.07億トンであるが、最大の輸入国はサウジアラビアであり、その他イラク、イランなど中東産油国も主要な輸入ソースである。

こうして中国は経済を優先して輸出と輸入の拡大に取り組んでおり、政治・軍事の国際紛争からは巧妙に距離を置いている。かつては手を出したイランの石油開発から身を引き、

その一方で売り先に困るイラン原油を目立たないように買い付けている。サウジアラビアに対しては巨大な中国市場での合弁製油所建設を持ち掛け、同じ湾岸産油国では油田の開発に参入、また三次元地震探鉱の契約を獲得している¹⁴。

サウジアラビア、UAE とつかず離れずの関係を守るオマーンに対しても、中国はアジアインフラ投資銀行(AIIB)を通じて6千万ドルの太陽光発電プロジェクトに融資している¹⁵。AIIB は日本などが主導しているアジア開発銀行に対抗して中国が設立したインフラ整備の国際金融機関である。中国はアジア・アフリカの開発途上国に対して直接融資も行っているが、相手国が返済困難になるや、港湾施設などを有利な条件で長期に借り受ける、いわゆる「債務の罠」を仕掛けてきた。「一带一路」の現代版シルクロードはこうして中東を経由してヨーロッパまで貫通しつつある。

5. カタール/UAE: 小兵の身軽さ、マネーあればGCCは不要



中東域外の米国、ロシア、中国、域内のトルコ、イスラエルなど強国のパワーゲームに隠れているが、潤沢なオイルあるいは天然ガス・マネーを駆使して存在感を発揮しているのが UAE とカタールである。両国はサウジアラビアとともに GCC(湾岸協力機構)を構成している。経済規模が小さく人口も少ないため、これまでは強大なサウジアラビアの言いなりになる傾向があったが、2010年の「アラブの春」をきっかけに中東全域が大きく動き出すと共に、両国の積極的かつ自主的な外交姿勢が目立つようになった。

それを裏付けているのは言うまでもなくオイル(ガス)・マネーである。

カタールは自由な報道を標榜する国営アルジャジーラ TV によりアラブにとどまらず欧米先進国でも高い評価を得ている。しかしイスラム穏健派のサウジアラビア、エジプトなどは逆にカタールを敵視し、イスラム過激派とのつながりを理由に2017年にUAE及びバハレーンと共にカタールとの外交関係を断絶した。しかしカタールはこれに屈することなく米国の締め付けとコロナ禍で経済困難に陥ったトルコに投資や融資を行うことで同国から後押しを受けている。カタールはGCCの中で孤立したのではなく、GCCから自立する道を開いたのである。イランにとってGCCの仲間割れは「漁夫の利」である。実際、アラビア半島上空を通過できなくなったカタール航空はイランの領空を利用しており、イランは通過料と言う貴重な外貨を稼いでいるのである。

UAE はカタールと異なりサウジアラビアと今も蜜月状態である。しかしよく見るとサウジアラビアより一歩も二歩も先を巧妙に立ち回っている。例えばイスラエルとの国交回復がそれである。これまでアラブ圏では絶対的な前提条件であったパレスチナ国家独立論を先送りして国交を回復したのは UAE が政治的影響力の少ない小国だからである。イスラムの盟主を自称するサウジアラビアがイスラエル・パレスチナ問題で自縛自縛に陥り、先の展開が見通せないのと対照的である。UAE の身軽さはイエメン内戦問題でも同じである。イランが後押しする反政府フーシ派に対抗する政府軍は寄り合い所帯であり内部対立が絶えない。南部独立派に肩入れした UAE は愛想をつかして自国軍を引き揚げた。結局サウジアラビアは尻ぬぐいに汲々としているのが現状である。

完

本件に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

荒葉一也

¹ Russian FM in Syria, meets Assad in first visit since 2012

2020/9/7 The Peninsula

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/07/09/2020/Russian-FM-in-Syria,-meets-Assad-in-first-visit-since-2012>

² Blow to Erdogan as US boots Turkey out of F-35 strike fighter program

2020/7/19 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1706781/middle-east>

³ Turkey: Russia to hold live-fire exercises in Mediterranean

2020/9/4 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1729291/middle-east>

⁴ Russian jets deployment in Libya sparks fears of Ankara-Moscow clash

2020/5/28 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1681301/middle-east>

⁵ グラフ「リビア原油量の推移」参照。

<http://menadabase.maeda1.jp/2-D-2-08.pdf>

⁶ US says Sudan to normalize ties with Israel, in new breakthrough for Trump

2020/10/23 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1753061/middle-east>

⁷ Blow to Erdogan as US boots Turkey out of F-35 strike fighter program

2020/7/19 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1706781/middle-east>

⁸ 「天然ガスに国際政治が絡み大荒れの東地中海」(2020年2月)参照

<http://mylibrary.maeda1.jp/0494EastMedPipeline.pdf>

⁹ Turkey, Russia seal deal for Karabakh 'peacekeeping center'

2020/12/1 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1770956/middle-east>

¹⁰ Erdogan's son-in-law resigns as finance minister

2020/11/8 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1760171/middle-east>

¹¹ Hagia Sophia mosaics will be covered with curtains during prayers -Turkish presidential spokesman

2020/7/19 The Peninsula

<https://www.thepeninsulaqatar.com/article/19/07/2020/Hagia-Sophia-mosaics-will-be-covered-with-curtains-during-prayers--Turkish-presidential-spokesman>

¹² Suspected Iranian nuclear mastermind Fakhrizadeh assassinated near Tehran

2020/11/27 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1769266/middle-east>

¹³ Arab News

<http://www.arabnews.com/?page=4§ion=0&article=132126&d=30&m=1&y=2010>

Israel kills top Hamas commander in Dubai

¹⁴ Adnoc awards \$519M contract to expand world's largest 3D seismic survey

2020/11/26 Khaleej Times

<https://www.khaleejtimes.com/business/local/adnoc-awards-519m-contract-to-expand-worlds-largest-3d-seismic-survey>

¹⁵ AIIB clears \$60mn loan for Oman solar project

2020/3/31 Muscat Daily

<https://muscatdaily.com/Archive/Business/AIIB-clears-60mn-loan-for-Oman-solar-project-5g52>